

作家、生井利幸事務所・社会貢献事業

クラシック音楽鑑賞会

主題：モーツァルトの作品をうつくしむ

【鑑賞作品】

♪ ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲

1 歌劇「フィガロの結婚」K.492 序曲

2 ピアノ協奏曲 第20番ニ短調 K.466 第2楽章

3 歌劇「バスティンとバスティエヌ」K.50 序曲

4 ヴァイオリン協奏曲第5番 イ短調 K.219《トルコ風》第3楽章

5 交響曲 第40番 ト短調 K.550 第1楽章

〈総合司会・案内役〉

生井利幸事務所音楽ディレクター、羽鳥香奈

2025年9月16日 火

会場：生井利幸事務所・銀座書斎

東京都中央区銀座3-14-2 第一はなぶさビル5階

開場 18:15 / 開演 18:20 / 閉幕 19:20

参加費：無料 クラシック音楽鑑賞ご希望の方は
どなたでも鑑賞いただけます。

席数：8席

申込期日：2025年9月8日(月)まで (満席になった時点で締め切ります。)

申込方法：メール kanahatori@hotmail.com に以下4つの内容

①「氏名」、②「住所」、③「電話番号」、④「当、音楽鑑賞会に参加する動機」を明記してお申し込みください。



日比谷線/都営地下鉄浅草線
東銀座駅から徒歩3分

問い合わせ先：生井利幸事務所

所在地：東京都中央区銀座3-14-2 第一はなぶさビル5階

電話：03-3547-6044 Fax: 03-6278-7930

事務所ウェブサイト：<http://www.toshiyukinamai.com>

担当：羽鳥香奈

携帯電話：080-3601-5262





生井利幸事務所 クラシック音楽鑑賞会

【鑑賞作品についてのご説明】

♪ ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト作曲

1 歌劇「フィガロの結婚」K.492 序曲

この作品は、生井利幸先生が、重要な行事がある節目節目に鑑賞される作品です。モーツァルトが生きた激動の時代は、フランス革命直前です。モーツァルトは、貴族が笑いものになり、召使であるフィガロが英雄になる物語を起用し作曲しました。モーツァルトにとってのオペラは、貴族だけのものではない、「全人類のため、真の人間存在探求のため」のもです。

2 ピアノ協奏曲 第20番 ニ短調 K.466 第2楽章

1785年、不朽の名作といわれる「ピアノ協奏曲 第20番」をウィーンで作曲しました。父の反対を押し切ってザルツブルクの大司教のもとで宮廷音楽家とする仕事を捨て、再び、ウィーンに戻ります。音楽家、作曲家、演奏家として、この作品を創作しているとき、モーツァルトはお金がなくても、愛する妻と子どもを持ちとても幸せでした。この作品には、穏やかな幸せと人生で味わった悲観が情感たっぷりに表現されています。

3 歌劇「バスティンとバスティエンヌ」K.50 序曲

モーツァルトが12歳のとき、初めて創作したオペラです。天真爛漫なモーツァルトの可愛らしさがこの作品に凝縮されています。ある日、皇帝ヨーゼフ2世がモーツァルトを宮廷に招き、「オペラを作曲してみないか」と提案します。皇帝の言葉に勇気づけられたモーツァルトは、音楽好きな医師、フランツ・メイヤー博士の注文で創作しました。モーツァルトが初めて作曲したオペラ「バスティンとバスティエンヌ」には、「フィガロの結婚」の聞かせどころのパートがすでに作曲され演奏されています。

4 ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ短調 K.219 <<トルコ風>> 第3楽章

モーツァルトが19歳のときに作曲された5番目のヴァイオリン協奏曲です。当時トルコ風が流行したため、途中でトルコ風の行進曲が感じられる場面が出てきます。少ない楽器編成のため、ヴァイオリンの音色の美しさが十分に感じられる作品です。

5 交響曲 第40番 ト短調 K.550 第1楽章

32歳のモーツァルトにとって、1788年はとても辛い年でした。長女が亡くなり、演奏会の注文もなく一家の生活が行き詰まってゆきます。それでも演奏するあてのない曲を作り続けます。苦境で創作した3大交響曲の一つが、この作品です。モーツァルトの美しい熱情が感じられるドラマティックな交響曲です。



当事務所は、人々の日常生活における心を豊かにしていただきたいと切望し、社会貢献活動の一環として年間6回程度、クラシック音楽鑑賞会を開催しております。

上記写真は、今までのクラシック音楽鑑賞会の様子です。

問い合わせ先： 生井利幸事務所

所在地： 東京都中央区銀座3-14-2 第一はなぶさビル5階

電話番号： 03-3547-6044

担当者直通電話： 080-3601-5262